



『国道まるごとクリーンアップ作戦』 に参加して

(有)協立工業 原 一基

去る平成15年7月9日に、(社)島根県建設業協会青年部会主催による「国道まるごとクリーンアップ作戦」が行なわれました。

作戦当日は朝から蒸し暑く、空も太陽は出ているものの少しどんよりした梅雨特有の天気でした。私が「国道まるごとクリーンアップ作戦」に参加するのは今回で2回目ですが、県建設業協会青年部会の機動力と団結力を改めて実感しました。

私が担当した区間は、多伎町役場前から手引ヶ浦台公園までです。昨年この作戦に参加した時と同じ区間だったのですが、昨年と比べると、わずかながらゴミの量というものが減ったような気がしました。とはいうものの皆さんの想像よりは、はるかに多いと思いますが……。落ちていたゴミの種類が違って来たといった方が良いでしょう。

昨年の作戦の時は、コンビニ弁当のカラやジュース缶、それに、9号線脇の駐車スペースにはワンカップやビール缶などの(なぜか?)お酒類の空缶・空ビンが落ちていました。しかし、今年はそれらの物はほとんどといっていいほど落ちていませんでしたが、タバコの吸いガラが目立ちました。車道路側や歩道、駐車スペースと、いたる所に吸いガラが……。その中でも一番多く落ちていたのが、駐車スペースの所でしょうか。車の灰皿をそのままひっくり返したような、まとまった吸いガラの小さい山。これには怒りさえ覚えました。私も愛煙者なのですが、タバコを吸っている以上、喫煙マナーをきちんと守ってほしいと思いました。

話がそれてしまいましたが、“道”というものは、何をしてもなくてはならないものだと思います。仕事をするにしても“道”を使い、遊びにしても“道”を使います。“道”の大切さというものを、この「国道まるごとクリーンアップ作戦」を通して、県内だけにとどまらず、県外の人々にも広がっていくようになれば良いと思います。



「土木の日 クリーンアップ作戦」を終えて



(株)日野組 日野 敏行

平成15年11月18日は朝から良く晴れ、11月とは思えない少し汗ばむ陽気で作業しやすい天気でした。

11:30、浜山公園駐車場(カミアリーナ前)に集合し、まずは出陣式が行われました。出陣式が終わってからその場で、参加者全員で弁当を食べました。青空の下で食べる弁当はとてもおいしく、この後の作業への“ヤル気”も湧いてきました。

その後、各班(1班、3名~4名)が担当の場所へ移動して、道路の清掃を始めました。私の班は4人で、県道大社立久恵線の浜山中学校からえびす治療院までの約3kmを行いました。作業前は、ゴミがたくさん落ちているだろうと思っていたのですが、「ポイ捨て禁止条例」の効果があっただけか思ったよりゴミは少なかったです。

しかし、空き缶等のゴミは少なかったのですが、たまにポリタンク、傘、車のホイールキャップなど思いもよらぬものがありました。私の想像ですが、捨てたというよりも、車から落下したのかなと思います。我々も日頃、トラックに色々な物を積んで道路を走っているのに、落下物がないようもっと充分に気をつける必要があると感じました。落下物は事故の原因になる恐れがあるので、トラックに色々な物を積むときは積み方に工夫をし、落下防止措置を取らなければいけません。今回の作業ではそのようなことも改めて教えられた、有意義な一日となりました。

さらに、今回の奉仕活動を通じて道路の大切さを痛切に感じると共に、日頃から空き缶等のゴミを見つけたら拾うように心がけようと思いました。

参加者の皆様、大変御苦労様でした。



視察研修に参加して



岩成建設(有) 岩成みち男

東京に行くたびに思うのですが、人の多さに驚き、様々なビルの山々に驚きます。

今回の視察会場である国際展示場（東京ビッグサイト）に着いたときの会員の一言は、「なぜ、こんな形に作ったんだろう？」ビルの途中に四角錐を逆さまにしたものが二つ。大きさといえば松江のくにびきメッセの四倍もあるかという大きさのビルです。僕も思うことは同じでしたが、先進技術を駆使されながらの施工だったのだらうと思うと、今、私たちに「こんなことができるのか？」「どこまでできるのか？」考えさせられます。

さて皆様の会社はどうでしょう？公共事業削減のあおりを受けて工事受注高も減り、緊迫した雰囲気の中をただ流されていませんか？一昔前のように、受注したら必ず儲かるという時代はすでに過ぎ去っています。毎年の単価の見直しや、官公庁の書類関係の見直し、入札方法の見直しなど、例に挙げれば、いくつもの負担が企業に押し掛けて来ています。

そんな中、国土交通省関係ばかりでなく県や市町村まで、電子化されようとしています。中小企業においては、その対応に追われ、ついていくのも必死になっているのが現状ではないでしょうか？官公庁だけでなく、民間工事についても経費削減を強いられる中、今までどおりの出来上りを望み、又それ以上を求められる時代です。

今回の視察『第18回 建築/建設の新技术展・情報展』では、電子入札、電子納品、また環境に対する新しい技術の展示があり、すでに実用化しつつある、電子入札や電子納品の形を勉強して帰りました。主に電子納品の形を各ソフト会社のブースを回り色々な説明を受けたのですが、ただ電子納品だけにこだわらず、そのソフトを利用して施主との協議の場にノートパソコンを持ち込むだけで、協議書及び図面の変更あるいは工事原価管理から出来高請求まで出来るという、新しいソフトの説明も聞きました。

また、電子入札においては、2003年4月より国土交通省が発注する全公共事業を電子入札化、2010年までには地方公共団体を含めた全公共事業を電子入札化するために、国土交通省のブースも設置されていました。

私たち建設業のこれからは、規模の大小にかかわらず、IT化をし、これらのシステムを上手に使い、事業コストの引き下げをして、公共事業の透明性の向上及び競争性の向上を図らなければならないと思いました。

しかし、IT化したからといってすぐにコスト削減とはいかないと思いますが、現状維持という形だけでは時代の波に乗り遅れ、企業存続の危機にまで発展しかねない、というのも正直な感想です。やはりシステムを上手に使うって、施主の要望を取り入れつつも事業コストを削減

しなければ、これからの建設業は成り立たないでしょう。

公共事業依存型と言われる建設業は、国の施策に付いて行かなければならないという重荷を背負っていますが、今回の視察研修を足がかりに、参加された企業はもちろん、参加できなかった企業の方も、一歩踏み出して、IT化の風に乗るべく未来ある建設業にしていきたいと思います。





明日への道を探して 2003 ～若き建設人の挑戦～

(有)間壁組 間壁和弘

小春日和となった「土木の日」の11月18日、クリーンアップ作戦の後、「明日への道を探して2003」と題した経営研修会が開催されました。

初めに別所部会長から、公共工事が削減する中、ただ手をこまねくのではなく、明日への道を探して、少しでも光が見い出せるものに挑戦していきたいと挨拶があり、先の見えない試練の時代に向けて自分には何ができるだろうか、との思いを抱きながらの聴講となりました。

まず、福田経営研究委員長が「北海道上磯町視察報告」として、昨年9月に北海道へ視察に行かれた際の、石炭灰を加工し「磯焼け」対策の製品として活用している事例を報告されました。磯焼け漁場に石炭灰を加工混入したコンクリート製品を沈め、フノリを栽培。そこに至るまでの経緯と実験の様子や製品について、さらには現在漁協で収穫され実績を上げている、という内容でした。

次に、久文副部会長より「新たな道を求めて」として、島根県地域労使就職支援機構で実施された長野県の異業種参入企業の視察結果報告がありました。

間伐材を破碎させることから始まり、炭や木酢をつくる。またそれをつくる過程で発生する熱を温室栽培に有効利用するなど循環型産業をめざしておられる会社。もう1つは、廃木材を使ったシックハウス対策ボード作製のため大規模な設備投資で機材を導入された会社。この2社の、本業である建設業の経営内容とからめて、新産業の現状と課題の発表でした。実情は、異業種に参入しても設備投資に見合う市場を開拓できるか課題は山積といったところでした。

建設産業の経営革新は、農業・社会福祉分野などへの進出が大きく取り上げられていますが、本業の強化に立ち返り、「自社の経営力」を高めることが第一ではないか、と私は思います。自社のような小企業は特に、品質・安全・環境に対する意識の向上をはかり、

技術と安全で顧客の信頼を得る

注文者に敏速・丁寧に答える

自社の生産性の向上を図る

一人一人がそういう意識で実施することが必要ではないかと、この研修会に参加したことによって改めて考えさせられました。

そして、最後に「マーメイド・スマイル・プロジェクト」の説明がありました。これについては、概要説明が本誌に掲載されていますので、そちらの方をお読みいただきたいと思います。

今後、ますます本格的な市場淘汰が進むことが予測されます。まずは経営能力を強化し、そのうえで異業種への参入なども常に情報を収集して、自社の発展に活かしていきたいと思っています。



平成15年度新入会員紹介

平成15年度は3名の方に入会いただきましたので、ご紹介いたします。

氏名 / 生年月日 / 会社名 / 役職 / 自己PR / 今後、青年部会でしてみたいこと



曾田 広幸 S40.10.6生

(有)森山組(出雲市) 取締役

体が丈夫なのが自慢です。

いろいろな会社の情報を聞いて、自社の仕事に活かしていきたいです。



西尾 美宏 S39.9.9生

西尾建設(株) (平田市) 代表取締役

昭和62年3月に福山大学土木工学科を卒業し、カナツ技建工業(株)、(有)西尾商事を経て平成3年1月に西尾建設(株)に入社、平成6年6月、代表取締役に就任いたしました。父が病氣療養中のため、平社員からいき

なり社長になったので、最初の1、2年はわからないことばかりで戸惑いました。

趣味と呼べるものはこれといってありませんが、強いてあげるなら、あまり人様に言えることではありませんが、競馬が好きです。興味を持ったことには熱中するタイプで、毎週日曜日は競馬をしています。穴狙いで、1月には万馬券を5本獲りました。

こんな私ですが、どうぞよろしく願います。

ここ数年、設計単価の引き下げや公共投資の削減で建設業を取り巻く環境は非常に厳しいものになっているので、他県または他国の同業者の視察などをして、学ぶべきところは学び今後の会社経営に活かしたいです。



渡部 智登志 S41.11.3生

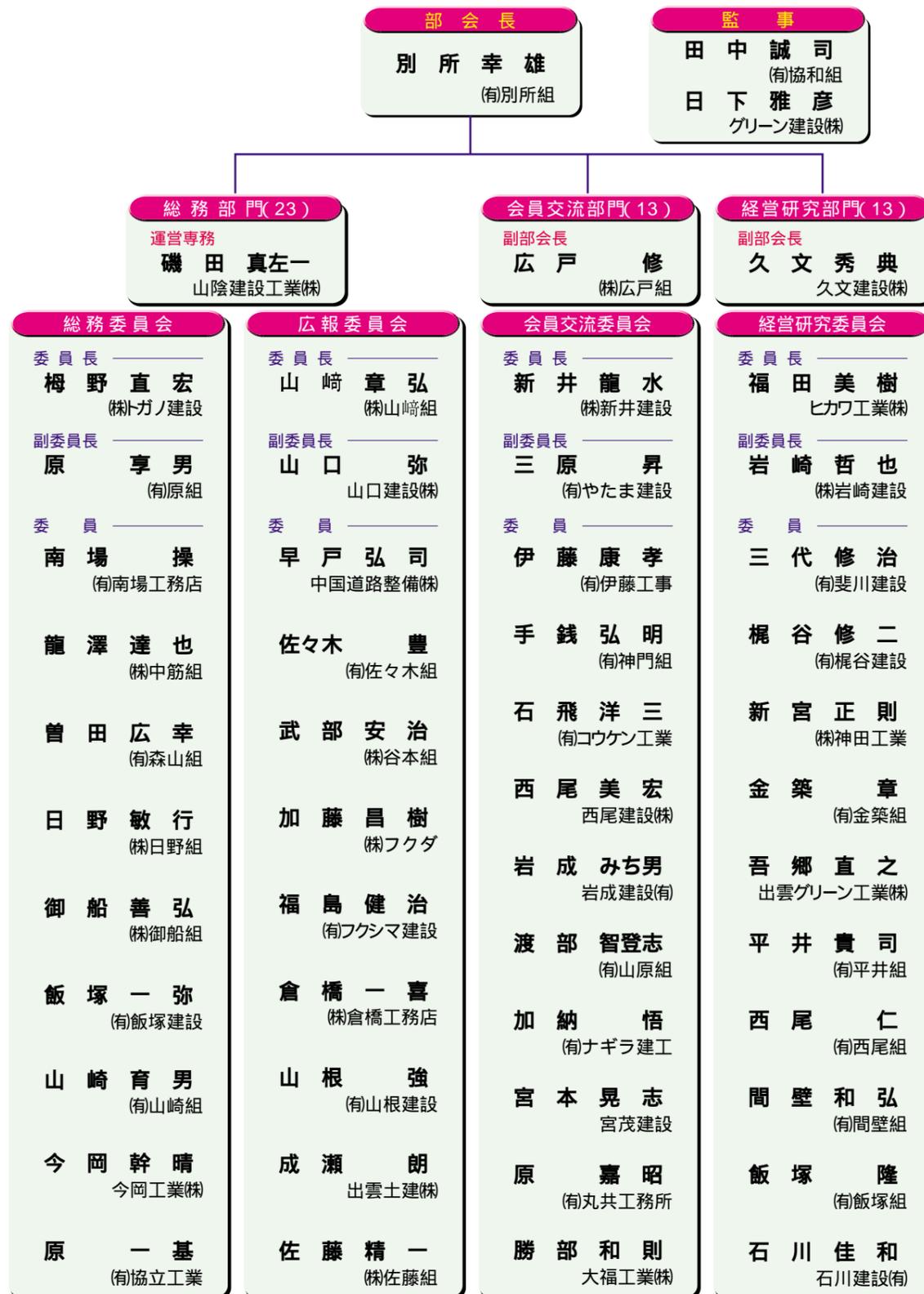
(有)山原組(平田市) 常務取締役

土木の経験が浅い私ですが、既成概念にとらわれず、新しいことをやってみようと思っています。

県外の同業者の新規事業への取組みや、県内であれば市町村地域を越えた、情報交換が出来ればと思います。

平成15年度
 (社)島根県建設業協会出雲支部青年部会

組 織 図



2004.1.17 安全祈願祭(出雲大社)

編集後記

この(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会も創立5周年を無事に終え、10周年に向けて新たな船出を始めました。

そこで、この5周年を期にこれからの新しい15年間に向けて心機一転、この『青雲』の表紙写真を変更させていただくことにいたしました。飛行機が飛び立つような“飛躍”というイメージから、雄大な風車が様々な風を受けとめて回り続けようとする、また、その風を自らの力として蓄える“修練”というイメージへと。

これからの数年間は、建設業界にとって“冬の時代”とも言われる大変厳しい時代のスタートです。我々青年部も、非常なる危機感を認識しています。その行動のひとつとしてMSP (Mermaid-Smile-Project) という新規事業プロジェクトを立ち上げようとしています。時代の変化を自らの手で操縦すべく“動く”という試みのひとつです。

歴史では様々な時代背景のもと、人間はいろんな壁に直面し、幾度となくそれを乗り越えて現在に至っています。そんな時必ずと言っていいほど、青年の勇気と行動が時代を変える推進力となっています。我々青年部会も高い志をもって、この変革の時代と付き合いなければなりません。青年部の皆様、共に手を取りがんばりましょう。

最後になりますが、今回ご寄稿いただきましたメンバーの皆様のご協力に感謝を申し上げます。また、別所部会長をはじめ、本年を最後にご卒業なさいます皆様の長年の御労苦に対しまして、あらためて敬意を表する次第でございます。お疲れ様でした。

広報委員長 山崎 章弘

